

平成27年度第2回 西木地域審議会議事要旨

日 時 平成27年12月16日(水) 10時00分～12時10分
場 所 西木総合開発センター 2階 大集会室
出席委員 門脇健郎会長、赤上マツ副会長、佐藤正敏委員、佐藤一委員、
武藤晟平委員、奥山孝子委員、武藤清茂委員、木元千恵子委員、
野中秀人委員、長澤正士委員 10名

欠席委員 沢山純一委員、齋藤瑠璃子委員、 2名

仙北市関係者

副市長 倉橋典夫
総務部長 藤村好正
西木地域センター所長 佐藤祥子

事務局

企画政策課長 平岡有介
定住対策推進室室長補佐 阿部聡
定住対策推進室主任 柏谷有紀

- 会議次第
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 副市長あいさつ
 4. 案件
 - 1) 総合計画基本構想(案)について
 5. 閉会

内 容

■会長あいさつ

大変忙しいなか、また寒いところご出席いただきありがとうございます。前回は諮問に関する意見が出ました。私が集約して市のほうに提出しましたが、抜けている部分もあると思います。今日はその件でいろいろと審議していきたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

■副市長あいさつ

2回目の西木地域審議会ですがよろしくお願いいたします。今日は総合計画基本構想(案)ということですが、次の10年に向けて市ではいろんな計画を作っております。今日お手元に配布しました総合戦略は5ヵ年の計画ですが、人口減少のなかで仙北市をどのように活性化していくか具体的な事業が取り込まれています。赤上副会長にも参加

していただいています。こちらは今、パブリックコメントを実施しており、来月には成案にしたいと考えております。当然この基本構想は総合戦略と整合性をもったものにしなければならないと思っています。さらに、全体的な計画が総合計画であると思っています。総合計画のほうは10年間の計画となりますので、具体的なものも含めて中長期的な構想も入ることになると思います。この10年の反省をふまえて、次の10年に向けて仙北市をどうしていくか、きわめて大事な計画になると思っています。できるだけ皆さんからのご意見を受け入れて、この中に取組みたいと思っています。田沢湖や角館の地域審議会も12月中に開催する予定になっております。2回目の審議会をふまえて最後は合同審議会を予定しています。2時間程度予定していますので、どうかご審議よろしく願いいたします。

■案件

1) 総合計画基本構想(案)について

資料1、2に基づき説明

門協会長

説明が終わりました。大変膨大な計画でございます。説明をうけての質問や意見等をお願いします。最初に私から質問です。基本目標1の地方創生部分についてですが、どういったことを考えているのかなど。ドローンについては市長が以前お話しされたと思いますが、ドローンを活用したものを今朝のテレビで拝見しました。どう活用して最先端の技術革新を進めていくのか、考えがありましたらお願いします。

事務局 阿部

国有林野の活用について現在実施しようとしているのは、国有林野をかりて、そこに豚を放牧しながら生産される肉を加工し、レストラン経営に結びつけていく事例と、ハーブなどを作付しながらそれを用いた製品加工をしていく農業生産法人を設立した会社もあります。国有林野の面積要件を下げることで、国有林を活用しながら仕事づくりをしていく土壌を整え、新たな市外からの参入、誘導を進めていきたいと思っています。ドローンについては、広大なエリアのなかでドローン飛行という部分では、落下など技術的に安定していない部分もあると思います。そういった技術レベルを向上するための練習場、あるいは研究機関の誘致などにより産業として根付かせることができないのかということを期待しています。またドローンの技術を使うことによって、住民の安全を確認する部分もあります。例えば秋田駒ヶ岳の上空を飛ばしての噴火状況、遭難救助への活用について実験する場として提供し、機械づくり産業にもっていけるかを模索しながら進めていきたいと思っています。

武藤晟平委員

前に薬用でキハダを植栽する話はなかったですか。キハダはある程度

の素材が良ければ一類。チェーンソーあてれば、パリンと中からまっすぐ割れます。そうなれば二類に落としますが、一類を買っていきたいと。金額的には一類は二類の倍です。木の皮を胃腸薬に使うそうです。国有林野をかりてキハダを植栽しても良いのかなと思いました。

門協会長 ヒノキと同じで、海拔何メートル以上だとキハダが良いとかということとは関係あるか。

武藤晟平委員 700 くらいまでは大丈夫と思う。

門協会長 今市では薬草のことに力をいれて、組合ができて頑張っているようですが、キハダの話はないですか。

倉橋副市長 今の仙北市で取り組んでいるのはツムラです。ツムラの指導で、薬草をうえてツムラで全て買い取ってくれます。資材も提供してもらっています。仙北市はヒャクヤクとビャクシ、チョレイマイタケです。キハダは漢方になりますか。

武藤晟平委員 聞いてみたところ、木部はいらなくて皮で胃腸薬ということでした。

倉橋副市長 買い取ってくれる人はどういった人たちですか。

武藤晟平委員 北秋の方の会社だったと思います。

倉橋副市長 検討してみます。

門協会長 西木村のときにやったときがあります。最後までやり遂げないでしまいました。

藤村総務部長 あの時は出荷先が中々うまくいきませんでした。

門協会長 ツムラに聞いたことないと思いますが、もしそういった話があればできると思います。

倉橋副市長 聞いてみます。

藤村総務部長 いずれツムラでは外国産の材料を使っていたのを、国産にシフトしてきています。必ずしも国有林野でなくても民有林でもできると思います。

門協会長	経験者がいるので、もう一度ツムラみたいな製薬会社と契約できればこれにこしたことはないと思います。そういったことも進めてもらいたい。
藤村総務部長	契約栽培ということで今は付き合いがありますが、当時は作れば販売先の確保が見つからなかったという状況でした。
門協会長	薬草の関係は今進めていると思いますので、出来るもの、出来ないものもあると思いますが、出来ればやってもらいたいと思います。他にございませんか。
武藤清茂委員	13 ページ、14 ページの移住対策のことです。地元の定着を図る為、いろんな施策をされていると思いますが、実際、移住されてきた方、こうしたら移住してきたという実績はありますか。
藤村総務部長	具体的な数字はわかりませんが、今年だけで17人程度だったと思います。5年前から比べると今年は多いです。今まで移住してきた方で、4割くらいは戻った方もいれば、他に移住した方もいます。理由はいろいろとあると思いますが、せっかく来てくれた方へのフォローが十分だったかどうかは検討課題になっています。
平岡次長	空き家バンクの利用状況ですが、15件登録があります。現在までの成約件数は7件、移住者の人数は二地域居住5名を含めて17名です。内訳が県外移住が2名、県内移住が4名、市内移住が6名、首都圏との二地域居住が5名です。
武藤清茂委員	そういった方は仕事はこちらでしているのでしょうか。それとも年金生活でしょうか。
事務局 阿部	刺巻に秋田市から移住してきた方で旦那さんは農業をやりたいということで、研修を受けて農業に取り組むと。奥さんは看護師として働くという方はいらっしゃいます。必ずしも年金生活者という訳ではなく、若い人たちも移住してきています。
藤村総務部長	地域おこし協力隊ということで荒町に1名が着任しています。グリーンツーリズムや農山村体験を中心に仕事をしてもらいます。本人もそういったことに取組みたいし、将来的には自分が取組みたいという意欲をもっている方でした。
武藤晟平委員	空き家の手続きは難しいものですか。

平岡次長	わからないところは担当職員が説明します。
武藤晟平委員	松葉駅のそばに空き家があります。用紙をもらって送りましたが、わからないところがあれば、説明してもらえるといいことですね。
平岡次長	権利関係がしっかりしていることと、鍵を誰かが預かっているかですね。内覧したいときに東京から来なければならないということは大変かと思います。
武藤晟平委員	鍵のことは聞いておきます。
門協会長	この項目はとても大事だと思います。出会い結婚、子育て支援、特に若者世代、子育て世代の地元定着を図るということを書いています。今若い人たちが都会に出て行ってしまい、後継ぎがいません。上桧木内はここより進んでしまっています。全県的な問題で大学に入る方がかなり増えてきたので、そういった方々が働く場所がないということが大きい原因だと思います。そういう人達をどうにかここにとどめて、定着してもらいたいという気持ちがあります。子どもといっても若い人がいなければ産まれません。この間テレビで千葉県だったと思いますが、片方の市で子育て支援を強化しているとなれば、片方からどんどん移住しているというニュースをみました。財政事情が大変だと思いますが、就職する場所を全県的な問題としてとらえて、若い人を定着させるために、福祉、子育て支援の援助について是非第1に考えてもらいたい。人がいなければ産業の話をして、何もできません。
倉橋副市長	総合戦略でも取り上げていますが、来年度予算がまだ決まっていないので確定したものではありませんが、来年度から医療費の無料化を中学生までにしたいと思っています。所得制限はあります。保育園の第二子以降は無料にします。それから放課後児童クラブは一人毎月4000円でしたが、毎月2000円に。市の奨学金をかりている人は返還しなければなりません。来年度以降仙北市に戻ってきた方は、一定の条件があると思いますが、返還を免除します。そういった対策をとることに決めました。議会も反対しないと思います。
門協会長	大変いいことだと思います。
木元委員	大学に行ってから戻ってこさせることは大事だと思うので、奨学金無料というのは戻ってくるきっかけになると思います。子育てに第2子、第3子無料というのも、実際産まないとならないと思います。他市でも同

じことをしていると思います。実際に大仙市に移住したという話も聞いたことがあります。大仙市は住居補助だったかわかりませんが、向こうで育てる方がお金がかからないということでした。ここでもウルトラ的なことをしないと若い人は出て行ってしまうのかなと思います。千葉県の例もですが、無理やりでも他から人を連れてくる気持ちでないと、どんどん出て行ってしまいます。この市だけが突出して人口を確保したいとなれば、他市にないことにお金をかけるべきだと思います。8つの柱でも定住と産業振興、教育文化が一番強くやらなければならないことだと思います。地方創生については、ドローン活用、ヘルスケアとありますが、新しいことばかりしても良くないと思います。現場に生きている企業、事業者にもっとバックアップしてもらいたいです。私も地元企業の勉強会に参加していますが、事業者も人手不足ですごく困っています。人口減少イコール人手不足イコール産業振興が成り立たないと。成り立たないので人が外に出ていくというサイクルにずっと悩まされています。新しい事業者を呼ぶということも聞きますが、そこに市民がどれだけかかわっているのかと。市民が市内で働ける環境を整えることが重要だと思います。幼稚園、小学校あたりのここに住んでいる子どもたちが、この場所に誇りを持たなければここで働きたいと思わないと思います。定住、産業振興、教育文化の中で、長期でずっと支えていかなければならないのは、教育部分だと思います。子育て、居住の支援は目先のことだと思います。西明寺中学校ですが、職場体験で市内企業に勉強しにきます。やってみてわかったということを知りたいのにたくさん書いてくれました。1年に1回だけじゃなくて、中学生インターンをしたらいいのではないかなと。角館高校700人が市内企業をインターンしてまわるとなれば、もっと定住したくなると思います。

赤上副会長

今の考えに私も賛成です。総合戦略でも意見をのべさせていただいていますが、高校生や大学生に帰ってきてくださいと言っても遅いと思います。やはり小さい時から素晴らしい郷土体験をして、ここで生きていくんだという気持ちを育てていく必要があると思います。それは学校教育です。今は幼稚園になれば幼稚園で過ごす時間が大半です。家庭にいる時間はあまりないわけです。学校教育の中で郷土愛の教育はされていますが、もっとここに住んで生きていくんだという気持ちを育てられる活動を盛り込んでもらいたい。

武藤清茂委員

子どもはどんどん増えていかないと。教育しても子どもがいなければできません。会長も言いましたが、何を最優先でいくかならば、人を増やすことを考えていくことが必要です。こういった施策は人がいなければできないことです。

門協会長

うちの時代は兄弟が4～5人は珍しくない時代でした。今は2人持つ人も多くないと思います。3人子どもをもってくれば、やや人口は増えるらしいです。

木元委員

増やすために教育文化をしっかりと、今いる人たちだけでもここに定住してもらうことが必要だと思います。一番強くしなければいけないのは、幼稚園、小学校、中学校だと思います。地域企業の方々と絡むことが必要だと思います。自分の両親が務めている会社に子ども達が見学しに行くということは大事だと思います。地方創生ってそういうことだと思います。ここに住んでいる人達が誇りを持たなければ、どうにもならないと思います。

野中委員

各地域審議会が出された意見がよく反映されていると思います。具体的な提案もありますが、実施計画にのせてもらいたいと思います。26ページで中山間地域及び耕作放棄地の有効活用ということで、耕作放棄地バンクを創設するとあります。ここだけ具体的です。耕作放棄地バンクの運用はととても大変だと思いますので、どうせだったら土地の有効活用を進めます程度に表現をとどめた方がよいのではないのでしょうか。耕作放棄地バンクは基本計画や実施計画に掲載したらどうでしょうか。土地は相手もあります。国では放棄地を課税するという話もあります。簡単にはいかないと思います。

倉橋副市長

まずは耕作放棄地の把握をしなければならないと思っています。厳密な耕作放棄地と遊休地になっているという農地もあります。それと確かにバンクとしてしまうと制度化しなければなりません。現状として所有者がこちらにいなかったり、地理的に農地としての復活が無理だとすれば別の方策も考えなければいけません。私の地元のお話で大変恐縮ですが、今年耕作放棄地を畑地化する事業を県事業として実施しました。自己負担はありませんでした。県の事業で2町歩を畑にして、それを地元の法人がアスパラやネギなどの耕作します。耕作放棄地の活用例としては良かったのかなと思っています。一定の規模やそれを受ける農家が必要です。農家についてもおそらくこれからは法人等が主体になっていくと思います。それと野中委員から指摘いただいた箇所については、表現の仕方については検討させていただきたいと思います。

門協会長

今都会の若い人達が農業をやりたいということで夫婦ずれで田舎に帰ってきて、農業をやって、所得は3分の2になったという人もいますが、それでも相対的にみて、こちらが良いという人もいます。

です。

木元委員

五城目の定住移住対策の例ですが、さかんにテレビで報道されてます。市の定住移住対策の人が引き抜いてきたそうです。東大、早稲田、慶應といった学歴が高い人達を3人ひっばって来たそうです。そしたら五城目がすごく気に入ったそうです。大学時代の方でベンチャーをおこしたメンバーをそれぞれ連れてきて、17世帯増えたといっていました。ピックアップしてくるのも必要なと。こっちに住んで全然間違いじゃないと口を揃えていうのはすごいことだと思います。私は町の職員ともお話ししたんですが、なんとかしたい一心で都会にいき、その時に会った人を取りあえず連れてきたと。家も確保して。それと五城目の良いところを一生懸命お話したということでした。定住移住対策を本気でやるとなれば、ピックアップしてくることも必要と思います。そういった感じの動きに仙北市は取り組みそうですでしょうか。地域おこし協力隊できた尾崎さんという女性は、私達と一緒にブナの森レストランという野外レストランに携わっていて、仙北市に絶対住みたいといってきた人です。言わば私達が良いところだよと言いつづけたから彼女もきたんだと思います。地元の人が本当に住ませなかったら、良いところだとたくさん言わないといけないと思います。4割戻ったということも、帰らせないように良いところだよと言いつづければいけないと思います。子ども達が大学にいつて帰ってこないと言ってますが、良いところだから帰ってきてって言ったかというと言っていないと思います。ここにいる人達だけでも、良いところだからとうるさいくらい言わないと住みたいと思ってくれないと思います。

武藤清茂委員

五城目のはテレビで見ましたが、全てが全部当てはまるのではなくて、そういったやり方もあるでわないかと考えさせられました。あの若い人達は五城目を説明して、賛同する人達が増えてきていると。そういったところも考えていったらいいと思います。

門脇会長

先日、生保内で自営している方が生保内は非常にいいところだと、全国番組でながれていました。

木元委員

以前、ユーストリームというネットのテレビで、仙北市はすごい良いところだと勝手に宣伝したことがあります。言いつづけたら、視聴者数がぐんと伸びたことがありました。若くて仙北市が良いところと思っている人達に光を当ててくれると伸びやすいかなと思います。五城目の例じゃないですが、良いところと言ってるのをキャッチするのは大人の仕事だと思います。

門協会長

基本目標4について。保健師さんの動きをいつも疑問に思っています。頑張っていると思いますが、今保健師はどういった活動をしているのかなという気持ちです。私は保健課長を8年くらいやった経験があります。保健師さんの役目は今は違うかもしれませんが、あの当時は、保健師のかばんと自転車があれば仕事ができるという時代です。あとは健診があったときにお手伝いに行くというものでした。そういったものにて、市民と話し合う時間をとっていました。当時、年間計画をつくってもらいました。集落をまわったり、健診をした際に要指導となった家庭をまわるというものでした。それから妊婦についても色々な指導をしたり、暇無く歩かなければなりませんでした。

藤村総務部長

たぶん会長と同じ気持ちだと思いますが、前ほど市民、地域の方が受入ができない、しないという環境があると思います。さきほど健診で要指導の話がありましたが、その家に行くことがなかなか出来なくなってきていると思います。現状は、結果通知して、相談に来て下さいというスタイルです。市民としてはプライバシーに入ってもらいたくないという気持ちが大きくなってきているのかなという思いはあります。

門協会長

だから健診率があがらないと思います。

赤上副会長

私が現場にいたときに実感したのですが、保健師さんの役割は本当に幅広になっていて、活躍してくれていると思っていました。保育園にも出向いてきてくれて、子育て支援のサークルをやっていますが、そこに保健師が入ってきて、離乳食の問題とか、子育ての悩みというのを直接受けています。それから、幼稚園のころ集団生活したときに気になる子がでてきます。一番先に気がつくのは保健師です。それをそのまましておかないで、幼稚園とかに結びつけてくるので、マンツーマンでその子達を導いていくというシステムができています。保健師の活動は広がっていると思っています。

藤村総務部長

付け加えると、被災したときに避難所対応、供養物の時ですが、家に戻った方々に対して1軒づつまわって心のケア等を行っていました。あのときは1ヶ月以上はフォローを行っていました。

門協会長

会館にきたら血圧図りにこいだの通知がくるはずですが、ここ何十年もみていません。子ども達のことでも保育園にはいくと思いますが、一般的な動きが見えていませんでした。一般の人達に来なくても良いと拒否されるということも、昔のように親しみがないからだと思います。

常に行って話ししないと遠い存在になっていると思います。特殊な仕事だし、誰でも出来る仕事でもないので、計画に結びつくような動きをしてもらいたいと思います。

長澤委員

先ほどから説明してもらった基本目標というのは、総合計画の基本計画になるものですか。

事務局 阿部

8つの柱に基づいた各施策を実施していくのは基本計画になります。

長澤委員

この8つの柱について、この中で一番大切なものは何になるのでしょうか。全て大切だと思いますが、予算は均等になるものではないと思いますが、市としては何に一番力をいれてやっていきたいと思っているのか。

倉橋副市長

今後10年間、あるいは20年、30年を見通したときに、人口減少対策が一番大切だと思っています。定住対策は一つの施策で完結するものではなくて、トータルな対策が必要と思っています。それこそ、子どもが生まれる前の若い人の雇用であったり、居住環境の支援、出会いの場の創設から始まり、産むときの支援、子どもの成長の支援、大きくなってここに定着するための支援、というトータルで考えていかなければならないと思っています。少なくとも、人口減少を食い止める対策に予算を重点的に配分しなければならないという気持ちがあります。

佐藤一委員

新たな計画ということで、前の10年があつてここにきていると。そういったことの検証はしなければならないと思います。それから地方創生という言葉は最近出たところですが、何も改めて言わなくてもいいと思う。私が育ったときは人も多かったです。集落に1人はしっかりしたじいさん、ばあさんがいて、何かあればその人に相談、料理だってそうです。結局人がいなくなったからだと思いますが、手をつけないで仙北市まで来てしまったと思います。その中で門脇市長になってから、地域運営体ができました。市長の思いはこういったことがあったと思います。地域が脆弱になるという思いからだと思います。それと今回新たに包括支援センターが研究会を立ち上げて行っていますが、地域を活性化させたいという思いです。みんな思いは一緒です。私が思うには、基本目標8については予算ではありません。職員の意識をきちっとしてもらいたい。会長がお話した保健師さんについても私も同感です。地域おこし協力隊の女性は、1軒1軒家を歩いたと新聞に書いていました。そこがポイントだと思います。市役所の職員ももう少し歩いたほうがよい。1軒1軒まわってみてほしい。これから

の10年は地域住民も、市役所職員と距離をおいているかもしれない。距離を縮めるための10年を取り入れてもらいたい。また新たに人を連れてくることもあるが、今いる年寄りも大事にしてもらいたい。買い物やデマンドをもう少し考えていく必要があります。年寄り達が亡くなっても、良い地域だったと思って死ねるような環境になってほしい。もっと面白い地域を作るためには、住みたくなるまちづくり日本一を目指しますということをお願いしたいと思います。

佐藤委員

私は農業しかやってませんが、財源、補助率です。法人作ってもお金がなければ何もできません。やれと言われてもお金がありません。そういった部分の財源は市で確保しているのか。予算はどれくらいとってくれるのか。仙北市が一番補助率が低いです。もう少し頑張ってもらいたい。若い人が農業に携わるといってもお金がなければできません。

倉橋副市長

例えば新しく就農する場合ですか。支援策は色々あります。現に新規就農者もいて、そういったお金をもらって仕事を始めて、補助事業で機械を購入してという人もいます。制度はいろいろあります。

佐藤委員

そういったことはどこで教えてもらえるのか。

倉橋副市長

農山村活性課です。あと基盤整備についても、自己負担はかなりなくなりました。ただ、ちゃんとした受け皿がいなければなりません。

佐藤委員

それが難しいです。自分の田は自分なんです。

倉橋副市長

ハンコをつかない人はそこです。

佐藤委員

自分の田を手放したくないんです。

門脇会長

離して作らせてもいいけど、何で収入で得るのか。1町歩でも2町歩でもあれば、食べていけます。それをやってしまえばゼロになってしまいます。

佐藤委員

今の内にやれとよく言われます。

門脇会長

畑もやれと言われても、今60、70になる人達に2町歩の畑をやって草むしりも出来るわけありません。そういった問題があるから進みません。やはり人口が減るといのは、交付税の積算にも影響がでるし、財源がない原因にもなります。とにかく若い人達が残ってもらえ

	<p>るような対策をして、子どもを産んでもらうと、そうなれば交付税も入るし、働けば税金も入ってくると。減っていくことについては、何もいいことはありません。</p>
佐藤委員	<p>すごい良い施策を出して子育て支援等をして、市の財源は厳しいものですよね。</p>
倉橋副市長	<p>かなり厳しいです。</p>
佐藤委員	<p>そうなればどこかで削らなければなりませんよね。増える財源があればいいと思いますが。</p>
佐藤一委員	<p>財源にきましたが、市民税は減ってきていますか。非課税の人です。住民税は住みよいまちづくりの基本だと思います。</p>
藤村総務部長	<p>減ってきています。所得があがれば税収もあがりますので、やはり仕事になると思います。</p>
赤上副会長	<p>メディアに取り上げられていることはとても良いことだと思います。仙北市の場合も、ここがよくて移住して、起業し成功をしている例など、核家族ではなくて、3世帯うまくいっている例はあると思います。そこら辺に目をつけていただいて、メディアから取り上げてもらうということも1つの方法かなと思います。あの影響はすごい大きいと思います。</p>
武藤清茂委員	<p>それに関して、内陸線がテレビにでました。角館駅から阿仁駅まで各駅とまって特産品を運び入れていた。食堂列車みたいで、乗車している人はとても楽しそうでした。あれも23ページのブランド化、産業と結びつけてとても良い取り組みだと思いました。</p>
門協会長	<p>話せば話したりないくらいたくさんあります。何とかして人口が増えなくてもいいから、減らない対策したいものです。</p>
木元委員	<p>メディアの件です。どこに行っても『仙北市』という名前がわからないと。角館、田沢湖の観光名所が入っていないのが非常に残念と聞きます。それから秋田新幹線は秋田県で4つ停まりますが、そのうち2つが仙北市でもっているのに、ここにお弁当がないと聞きます。ここで食を絡めた観光振興と書いていますが、来た人が仙北市がわかるようなものを各駅に置くような取り組みをしてほしいと思います。私も仙北市をよく発信している方ではありますが、首都圏から角館駅や田</p>

沢湖駅につくにはいいけれども、そこから温泉に行くにはどうしたらいいとか、こういった店にいきたくどどういった手段をとったらいいかと聞かれて、自分で調べてもすごく情報が少ないです。国内外の誘客を拡大するためであれば、一生懸命した方がいいと思います。それと総合戦略で雇用力をみていましたが、宿泊、小売り、飲食店は乱暴ですが観光に携わる人が稼いでいると思います。3000人雇用していて、国内外の外資を誘客するのであれば、HPの活用や情報発信というのはメディアをめちゃくちゃ活用していく必要があると思います。もちろん台湾、韓国にも行って誘客しているのは知っていますが、それでもちゃんとお金を落とす人達はグリーンツーで泊まるだけでなく、温泉に入りこきて、ご飯を食べて、お酒を買って帰るというサイクルがなければ、大きいお金は落ちないと思います。私もヨーロッパの農村地域を調べると、飛行機はどれに乗ってきて、どういった乗り継ぎをして、お金はいくらかかりますといった情報がすぐわかります。北東北は世界中から見ても美しくて手つかずの自然が残っているので、めずらしいと思います。特に仙北市は手つかずの田舎だと思います。HPはとても大事です。もっとわかりやすくしてほしいです。それとバスも2時間に1本だとお客さんもきません。各温泉施設でシャトルバスはでていますが、もっと全域を周遊する方法をHPにものせて、観光振興をしてほしいと思っています。

門協会長

インターネットの宣伝については、不足かもしれません。バスについては連盟で企画しています。角館から乳頭温泉までのバスを毎年予算をとってやっています。宣伝が悪いのかな。その点は次の理事会でも話します。大変良い意見をいただきました。もう1ついいですか。お金がない、財政的に大変、これから人口が減ってくるともって大変になると市長もよくお話しします。金も使い道という面から見ると夢牧場。今は牛が600頭ほど入っています。農協、県、市から補助金を出しながら誘致しましたが、雇用されたのはたった2人です。全国で2位をとった立派な牛も誕生しましたが、地元にいる私達の口にはとっても入りません。あまり高くて。連れてくるときは、宣伝として田沢湖畔で焼き肉などして、みんなにも食べられるようにするという希望もてる話しをしたんです。それも買えないです。それとクニマス未来館。いずれクニマスを連れてくるためにやるんでしょうが、あの田沢湖の水が住めるようになるには何十年、何百年かかるかわかりませんが、あそこ7億でしたか。かかるんですか。とにかくそれだけのお金をかけて資料館を造ったとして、最初は珍しいから1年そこらは人がいくと思いますが、今の状況を見ると……。せっかくやろうと頑張っているときに水をさすわけではありませんが、うまくいくのかなという疑問があります。お金の使い道については、一考、二考する必要

があると思いました。他にございませんか。それでは、皆さんから大変貴重な意見がでました。今の意見をこれから作ろうとしているものに十分に反映してもらえるようお願いいたします。それでは今日の審議会は閉会します。ありがとうございました。

(12:10終了)